

が つ ぎ ょ う じ よ て い

8月の行事予定

にちようび 日曜日	げつようび 月曜日	かようび 火曜日	すいようび 水曜日	もくようび 木曜日	きんようび 金曜日	どようび 土曜日
						1
2	3 ・曲暮 ちいさじゅんかいじぎょう ・地域巡回事業	4 ・卓球	5 ・曲暮	6 ・パソコン ・貯筋体操	7 ・卓球 ・曲暮 ・各種相談日	8
9	10 ・曲暮 ・スローエアロ	11 やまのひ 山の白	12 ・曲暮	13 ・ふれあい喫茶 ・パソコン	14 ・卓球 ・曲暮	15
16	17 ・曲暮 ・スローエアロ きょうしきいんがくしゅうかい ・教職員学習会	18 ・卓球	19 ・曲暮	20 ・貯筋体操 ・パソコン ・月イチ★ダンス	21 ・卓球 ・曲暮	22
23	24 ・曲暮	25 きょうしきいんがくしゅうかい ・教職員学習会	26 ・教職員学習会	27 ・貯筋体操 ・パソコン	28 ・卓球 ・曲暮	29
30	31 ・曲暮					

「沢知恵 曲」

「塔和子 詩」

・ ・ ・

積み重ねて大きくなり

幸や不幸を

かかわったが故に起こる

かかわることから始まって

恋も友情も

親は子とかかわることによって

子は親とかかわり

人はかかわることからさまざまな

思いを知る

沢さんが、自分への応援歌として、

ピアノ弾き語りで唄っている詩

『胸の泉に』

抜粋・・・

あ さ ひ ぶ ん か か い か ん

朝日文化会館

か い か ん

あさひぶんかいかいかんれんらくさき

朝日文化会館連絡先

じゅうしょ しこくちゅうおうししみしまあさひ ちょうめ ばん ごう

住 所：四国中央市三島朝日3丁目5番30号

TEL：0896-28-6070

FAX：0896-28-6104

会館だより

だい ごう ねん がつごう

第521号 2026年8月号



「ひまわりの日記」

はなごとは じょうなつ

花言葉：情熱・あこがれ

し

【お知らせ】

さしえ gauyasu

挿絵

- ふれあい喫茶（今月は13日 木曜日）

き こんげつ にち もくようび ややくし き がつ にち

予約締め切りは8月11日まで。
- 各種相談日 8月7日（金）10：00～

かくしゅそうだん がつ か きん

じんけんそうだん せいかつそうだん こま なん はなし き

人権相談、生活相談、困っていること、何でも話にしてください。
- 周辺地域巡回事業 8月3日（月）15：30～

しゅうへんちいきじゅんかいじぎょう がつ か げつ



びょう じんけん ハンセン病と人権について



わたしは、2022年5月に瀬戸内芸術祭の会場の一つで、以前から気に留めていた、高松港沖に浮かぶ大島(船:20分)を訪れました。島には国の理不尽な政策により、ハンセン病患者を強制的に隔離した国立療養所大島青松園があります。島の歴史や社会的背景に向き合える芸術祭の作品や映像からは、女性が子どもを産み育てることが出来なかったり、自由を求めて対岸へ泳いで渡る人が後を絶たなかったことを知り、胸をつかれる思いに私はじっくりと向き合う時間となりました。

2026年7月2日・3日に四国地区人権教育研究大会が香川県高松市で開催され『かかわらなければ～ハンセン病を生きた人のうた～』と題し、歌手として活動する沢知恵さんの講演があり、改めてハンセン病と人権について考えてみました。

ハンセン病療養所の音楽文化を研究する沢さんは、ほとんど記憶のなかった生後6か月と4歳頃の2度、周りの反対を振り切り、牧師を目指した実習生の父に連れられて、大島青松園の教会を訪れます。

18歳で父を亡くした沢さんは、幼かった自身を知る人に話を聴くため、約20年ぶりに青松園へ再訪を果たします。そして回復者の人たちと一緒に涙を流します。

沢さんはハンセン病と本格的に向き合いたい思いから、一人ひとりの人生に耳を傾けると、回復者は家族と離れて暮らした日々、失われた時間、それでも懸命に生き抜いてきた人生を語ってくれました。お互いが共に寄り添い、支え合って共同生活を営み、なかには、詩を紡いで文化的な活動を行い歌人となる方もいました。

ハンセン病は、らい菌に感染すると起こる病気で、以前はらい病とも呼ばれ、今はハンセン病と呼ばれています。感染力が極めて弱く、日常生活で感染することはなく、遺伝もしません。1941年アメリカで特効薬が開発され、ハンセン病の治療法も確立され、日本でも戦後1960年頃には隔離の必要もなくなりました。

他の国々では隔離を解いていったにもかかわらず、日本では、隔離を強制する法律であるらい予防法や旧優生保護法が廃止されたのは1996年のことでした。

その後の国賠訴訟や家族訴訟により、ようやく国の責任が認められました。

沢さんは講演の冒頭で、来場者の皆さんに問いかけました。

「あなたは、人とかかわることが好きですか？」

～沢さんの拳手の求めに、来場者は拳手多数～

「人とかかわることが、得意ですか？」

～同じく求めに対し、拳手は極わずか～

好きだけど、得意かと問われると「自信がない」というのが多くの人の本音です。

人生の大半は、人とのかかわりです。人にかかわらなければ、生きていけません。

沢さんは全国14ヶ所のハンセン病療養所を訪問し、回復者とのかかわり、園歌の研究を重ね「回復者の方から、自ら燃える力を授けてもらっている」と話します。

苦しみを経験しながら、人を憎むのではなく、「同じ悲しみを、もう誰にも繰り返してはいけない」と言葉として残された声だけでなく、語ることなく人生を終えた人たちの思いにも、耳を澄ませて、詩を届けていきたいと、ピアノを弾き語る沢さん。

そんな思いや研究したことを詩にのせ、未来へ伝えていくことが自分の使命と考えて、大島青松園コンサートを2001年から開催し、今年で24回目を迎えます。

大島青松園は現在29名の方が入所し、平均年齢は88歳を超えます。入所者が詠み残した詩や短歌には、その人たちの懸命に生きた人生の歩みが刻まれています。その歩みを積み重ねていくことが、差別や偏見のない社会への確かな一歩につながることを、静かに詠っています。今を生きる私たちに託された大切なことは、その人たちの遺した詩や言葉が消えないように、その声を未来へつないでいくことだと思います。私は、大島青松園を胸の中に留めて、そのかかわりを大事にして今後の歩みに活かしていきたいと思います。 朝日文化会館主事 西岡 孝文

参考文献 著者：沢 知恵「うたに刻まれたハンセン病の歴史 園歌はうたう」

「あなたがたの島へーハンセン病療養所と私」表紙写真・P145・巻末QR



沢 知恵
大島青松園
コンサート
2024



大会資料
抜 粋